



# みずからまもるレポート

vol.1



Protect from water by myself



## 「みずからまもる」プロジェクトの現在の状況とこれからの取り組みをお伝えします。

**五**ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が市の中心部を流れる「のべおか」では、平成17年に発生した台風14号により、軒並み戦後最高となる水位を記録し、市内5ヶ所では堤防を越水、河川水位の上昇による内水被害が発生するなど大きな爪跡を残しました。

このような被害を軽減するため、平成17年11月18日に「五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）」に採択され、現在、平成21年度までの5カ年計画で、集中的に河川改修を進めています。

併せて浸水被害を着実に軽減させるために国・県・市が一体となった「みずからまもる」プロジェクトを設立し、地域や関係機関と連携しながら、河川事業などのハード整備だけでなく、防

災メールサービスやハザードマップの公表など、ソフト面での対策も行っています。

激特事業採択から約1年経った現在の状況を知り、個人・地域の防災力向上に役立てていただくため、取り組みと進捗状況をお知らせします。



夕刊デイリー 平成17年11月29日



土のう積み演習（北小路地区）

### 激特事業とは？

洪水や高潮などにより大きな被害が発生した地域において、様々な河川改修を短期間（5カ年）に集中して行い、その後の災害被害を軽減する事業です。平成9年に大きな被害があった五ヶ瀬川水系北川では、すでに事業の効果を発揮しています。

### 「みずからまもる」とは？

災害を軽減するには、治水事業だけでは限界があり、各行政や地域の皆さん自らが「災害に強い地域づくり」を進めることが大切です。「みずからまもる」プロジェクトとは、「水からまもる」=水を治める、「自らまもる」=地域の防災力向上を併せて被害軽減に努める意味で付けられました。

# 水からまもる ～ 五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業

## (通称: 激特事業) の進捗状況 ① ～

	河道掘削
	築堤
	排水機場
	H17年台風14号 浸水管所

事業箇所と  
現在の状況じゃ



### 河道掘削 かどうくさく

河道掘削とは、川を広くまたは深くして洪水を流れやすくする工事です。

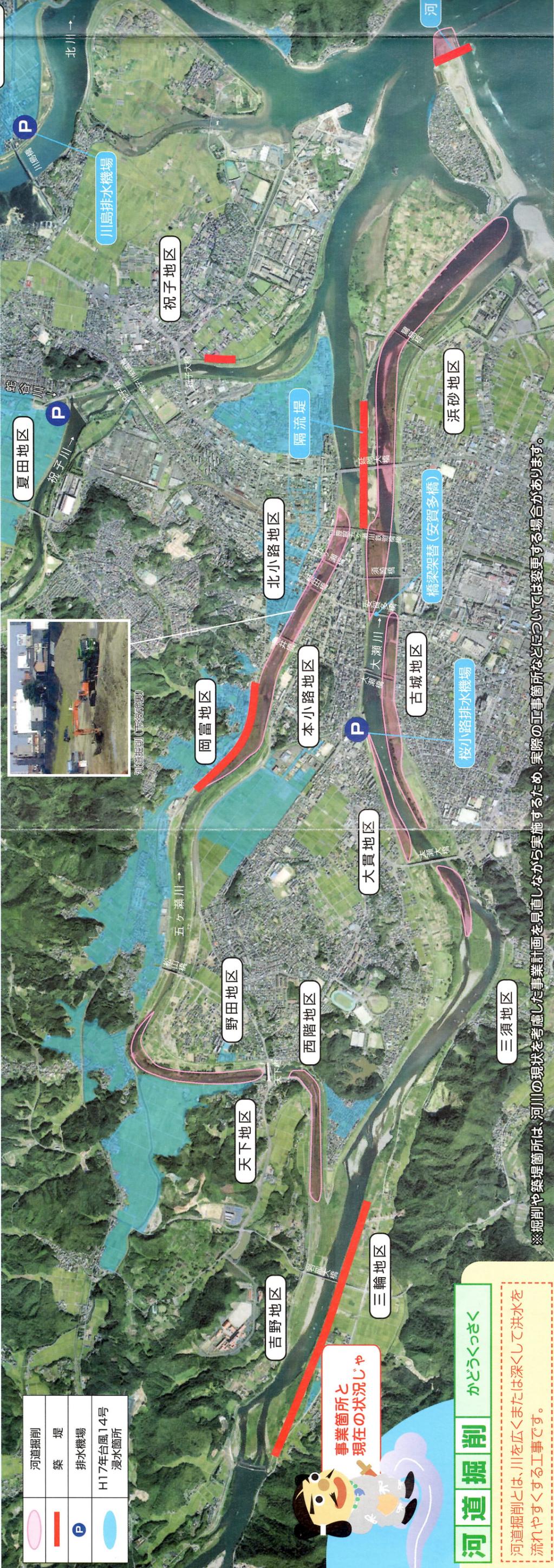
五ヶ瀬川では現在、天下橋上流、岡富・古川地区、北小路・本小路地区の掘削を実施しています。

また、北町・本小路地区では、治水整備はもちろんのこと「北町・本小路の護岸整備を考える会」が設立され、意見交換等を行い、住民が川に親しめる場所として生まれ変わります。

大瀬川では、延岡大橋より下流の掘削を実施しています。

※掘削で発生した土砂は有効活用されています。詳しくは裏面をご覧ください。

完成イメージ図 (市役所裏)



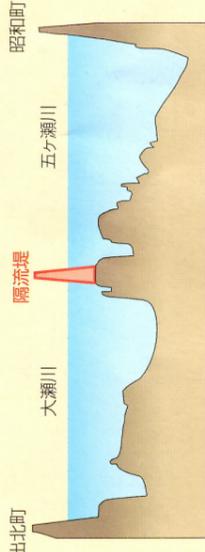
※掘削や築堤箇所は、河川の現状を考慮した事業計画を見直しながら実施するため、実際の工事箇所などについては変更する場合があります。

### 隔流堤 かくりゅうてい

河川の合流部に設置することにより、合流による水位上昇を防ぎます。

延長約760mのうち、昨年度までに約130mが完成し、さらに平成18年度中に180mが完成します。

隔流堤のイメージ図



### 堤防 ていぼう

洪水が越水しないよう堤防を設置(築堤)、または計画の高さまで高くします(かさ上げ)。

平成17年の台風14号の洪水で越水した紺屋町・北小路地区、西階うぐいす団地付近の堤防かさ上げが完成し、三輪地区については、現在、築

工事を実施しています。また、岡富・古川地区についても、今年度暫定的な盛り土によるかさ上げを行います。



三輪地区 (台風直後)



現在の状況

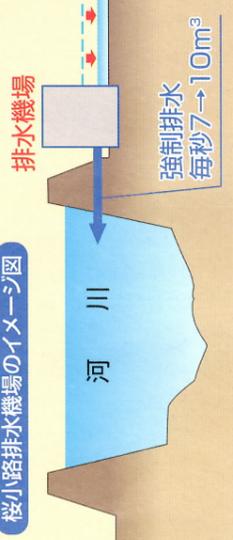
### 排水機場 はいすいきじょう

洪水時に対象支川の水が溢れないように、ポンプを使って本川に強制的に排水する施設です。

桜小路排水機場の増設 (現在は毎秒7m<sup>3</sup>、増設後は毎秒10m<sup>3</sup>) が10月に完成しました。これにより大貫町の市民体育館一帯の浸水が軽減されます。また、北川の川島排水機場については、平成19年3月に完成、追内排水機場については平成21年3月に完成します。

祝子川においても、現在、宮崎県が夏田地区の排水機場の整備を進めています。

桜小路排水機場のイメージ図



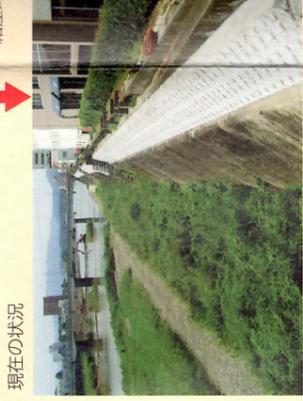
### 漏水対策 ろうすい

堤防が壊れないように、水が漏れた箇所を補強します。

三須町、新町～桜小路、大貫町、下三輪町、紺屋町～砥園町において対策を行いました。



紺屋町



現在の状況



すいたいさく  
れた箇所などを



# 事業実施にあたって

## ●風土・文化や歴史への配慮

延岡市は古くから城山を中心とした城下町として栄え、数多くの風土・文化、歴史がはぐくまれてきました。置堤や水神様の保全、若山牧水歌碑の設置など地域に根ざした事業の実施によりこれらに配慮した事業を積極的に進めていきます。



置堤

## ●豊富な水産資源への配慮

五ヶ瀬川水系では、古くから水産資源が豊富で、アユやなや瀬掛けなどが、延岡を代表する風景であるとともに、重要な観光資源になっています。これら水産資源などに配慮し、事業を実施します。



水神さま

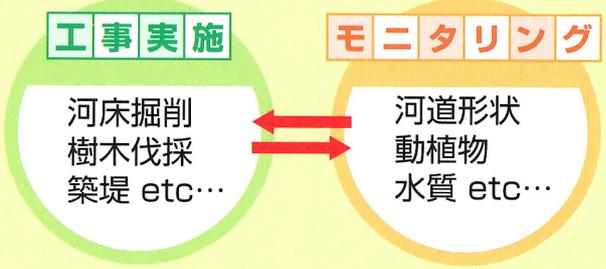
## ●良好な河川環境への配慮

五ヶ瀬川水系は、良好な干潟や河畔林などの豊かな河川環境が多く残され、河川環境を無視した事業は動植物にとっても大きな影響を与えかねません。十分な調査と配慮をしていきます。



アユやな

事業中もモニタリング(追跡調査)を重ねながら、最適な対処方針を検討し、事業を進めていきます。



河畔林と干潟

# 事業計画

今後の洪水発生に備え、早期に浸水被害の軽減ができるように計画的に事業を進めていきます。みなさまのご理解、ご協力をお願いします。

地域のみなさまや関係機関との調整や詳細な調査・検討などにより、計画は変更される場合があります。

- 河道掘削
- 堤防
- 排水機場
- 橋梁

地区	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
国土交通省	五ヶ瀬川	西階地区 北小路地区	三輪地区 隔流堤	河口開口 野田地区	岡富地区
	大瀬川	浜砂地区		恒富地区 大貫地区	安賀多橋
	北川		川島地区 追内川地区		
	椋子川		祝子地区		
宮崎県	五ヶ瀬川		五ヶ瀬川水防災対策特定河川事業 堆積土砂掘削		H22年度完了予定
	北川		北川水防災対策特定河川事業		H22年度完了予定
	椋子川	夏田地区			

# 自らまもる ～ 水害に強い地域づくり ① ～

## 五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会

平成17年9月の台風14号による水害は、河川改修や施設の整備といったハード対策だけでは、浸水被害を解消することが困難なことがあらためてわかりました。

「五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会」は、主にソフト面の具体的な対策を協議し検討することを目的に設立されました。協議会開催の中で大まかな方針が決まりました。



協議会の様子

## 防災資材の確保



大型土のう

平常時からの水防活動用土砂、及び保管場所の確保を強化し、更に平成17年9月の台風14号時に堤防越水した箇所付近には、緊急時の越水防止のため、大型土のう等の備蓄に努めています。

- 1.情報の共有化を推進
- 2.市民への情報提供の推進
- 3.水防活動用の土砂等の防災資材の確保など

## 情報の共有化

防災関係機関等と結んだ、独自の「五ヶ瀬川危機管理情報システム」の本格運用を行うため、関係機関の情報をオンラインで反映するためのシステム改善を図り、情報の共有化を推進します。

## 市民への情報提供

分かりやすく正確な情報提供を目指し、延岡河川国道事務所や県のホームページでは河川ライブ画像を配信しています。自宅近く現在の川の様子が一目で分かり、早期避難などに役立ちます。

また、国・県に続き延岡市は平成18年5月に災害情報メールサービスを開始しました。

このサービスは災害時に、登録者の携帯電話へ避難等の最新情報をメールにて配信するサービスです。

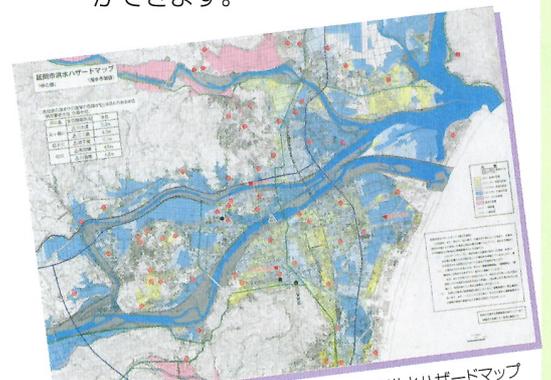
登録・配信は無料です。利用希望の方は、下記アドレスから登録申込みができます。



河川カメラ画像(五十鈴川更正橋)



宮崎県の雨量・河川水位観測情報ページ



延岡市洪水ハザードマップ

宮崎県防災・防犯情報メールサービス(携帯)登録先 <https://www.fastalarm.jp/miyazaki>

延岡市災害情報メールサービス(携帯)登録先 [b@nobeoka.yobidashi.com](mailto:b@nobeoka.yobidashi.com)

上記メールアドレスに空メールを送信して下さい。折り返し登録フォームが送られてきます。

宮崎河川国道事務所ホームページ  
<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報  
<http://kasen.pref.miyazaki.jp>

国土交通省 川の防災情報(携帯)  
<http://i.river.go.jp>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報(携帯)  
<http://kasen.pref.miyazaki.jp/mobile>

メールサービスとは  
災害時に状況をメール配信  
するシステムです



延岡市防災メール受信(イメージ)

7月には防災ハザードマップを公表しています。普段からの備えと併せ、これらの情報を有効に活用することにより、地域防災力の向上に役立てましょう。